

保健体育研究部会

I. 研究テーマ

健やかな体の育成に向けた体育学習の在り方

II. 研究テーマ設定の理由

保健体育科は、心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践をとおして、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てることをねらいとしている。

現在、体育学習における主な課題は、

- 運動への関心や自ら運動する意欲、各種の運動の楽しさや喜びを味わえるよう自ら考えたり工夫したりする力や、その基礎となる運動の技能や知識など、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成が十分に図られていないこと。
- 運動をする子どもとそうでない子どもの二極化への指摘があると同時に、子どもの体力の低下傾向が依然深刻な問題となっていること。
- 学習経験のないまま領域を選択しているのではないかとの指摘があること。などがあげられる。

こうしたことを踏まえると、学習指導要領に基づき、学習内容を体系化（整理）することは、必然的に求められてくる。

本研究部会は、毎年よりよい体育授業の創造と適切な評価活動のあり方を模索し、多くの成果をあげている。同時に、各校の実践を持ち寄って、現場での悩みや課題を互いに共有したり、公開研究や実践発表などで意見交換を行ったりして授業改善に結び付けてきた。長年、「選択制授業」の研究を機軸に様々な方法やねらいで授業実践を推進してきたが、近年は、運動技能を高めることに主眼を置き、実践研究を行っている。3年間で何を教えるのかという学習内容の検討に取り組んできた本研究は、学習内容を明確にし、それらをより確かに習得させることを基本方針とした、改訂学習指導要領の趣旨をしっかりととらえていたといえよう。

体育学習は、すべての子どもたちが、生涯にわたって運動やスポーツに親しむために必要な、また、健康・安全に生きていくのに必要な知識や技能を身に付けることをねらいとするものである。こういった観点から、体育においては、「身体能力」、「態度」、「知識、思考・判断」を身に付けさせ、一定の「経験」をさせることが必要となる。生涯にわたって運動に親しむ資質や能力は、発達段階に応じた学習を通して適切に定着させることが大切で、すべての子どもたちが、多くのスポーツに共通した要素をもつ運動種目

や広く普及している運動種目等を通して、生涯にわたって運動やスポーツに親しむための基礎となる「技能」を習得することが求められる。このことが、本研究テーマである子どもたちの「健やかな体の育成」につながるのである。

そこで、今年度、本研究会では、生徒が基礎的・基本的な技能や知識を確実に身につけ、運動を豊かに実践できるようになるための体育学習を研究し、所属する体育教師同士が、研究内容や成果を共有し、日々の授業に生かせるよう、具体的な視点を次の3点とし、取り組んで行きたい。

○単元計画については、パターン化したいくつかのモデルを作成する。

○ゲームの様相については、こうなって欲しいという生徒の動きや攻防について文章化する。

○タスクゲームやゲーム分析については、アイデア（工夫例）を持ち寄る。

といった取り組みができたらと考えている。

Ⅲ. 研究の経過と内容

1. 研究仮説

「ゴール型」の授業を中心に、目指すべきゲームの様相を発達段階に応じて明確にし、単元計画・評価計画や学習方法(場)の工夫について情報交換を行えば、各校における授業への取り組みが見直され、より充実した体育学習の実践につながるだろう。

また、体育学習を見直す視点が明らかになり、毎時間の授業が充実すれば、生徒は運動やスポーツに主体的に取り組む、健やかな体が育成されるだろう。

2. 研究計画

4月	10日(火)	第1回部会総会・研究会	城南中
5月	15日(火)	第48次春季全体集会・第2回部会	南西中・石田小
6月	17日(火)	第3回部会研究・授業研究	南西中 ※3年バスケ
8月	7日(木)	第4回：グループ別研究	南西中
		14：00～ 第49次夏季全体集会	アイメッセ
8月	20日(水)	9：00～ 第5回部会研究会	南西中 ※指導主事より講義
9月	4日(木)	第5回：グループ別研究	南西中
10月	2日(火)	第6回：グループ別研究 まとめ	南西中
11月	4日(火)	県教研環流報告・実技講習会	南西中
1月	27日(火)	研究のまとめと本年度の反省	南西中

来年度への課題の確認

3. 研究の経過と内容

今年度は、昨年度までの研究の成果の上に、新たな研究を進める初年度となった。テーマは昨年度までと変わらないが、今後、新学習指導要領の各領域に対応できる指導方法の研究を進め、より多くの教材を開発できるような研究仮説を設定した。

昨年度までの研究成果や課題ということで、教材開発や実技講習の重要性が確認され、今年度は、生徒が基礎・基本的な技能や知識を確実に身に付け、運動を豊かに実践できるようになるために、所属する体育教師同士が、研究内容や成果を共有し、日々生かせる授業を展開させるにはどうしたらよいか議論した。

具体的には、①ゲームの様相（こうなってほしいという生徒の動きや攻防について文章化）②タスクゲームやゲーム分析③単元計画についていくつかのモデルを作成する。どの単元においても教師が単元の最終段階で生徒にこうなってほしいということを明確にし、授業を行うことが教師の力量を高めることが不可欠だと考えた。

そこで、今年度はゴール型1，2年生のバスケットボール，サッカー，3年生のバスケットボール，サッカーにおいて、4つのグループにおいて研究をおこなった。早い段階で、3年生のバスケットボールの授業実践を行い、3年生のバスケットボールの目指すべきゲームの様相を提示した。授業後に先生方から意見を出していただき、1，2年生でどこまで技能を身に付けさせたいか？3年生の目指すべきゲームの様相がどうなのか？と言う議論を行った。

授業実践から出された意見を基に、生徒の基礎基本を身に付けさせるためには、どのような教材の工夫を行い、指導すれば、すべての生徒に技能獲得ができるか考え、まずは先生方のいままでの実践や知識を結集し、紙面にまとめた。

具体的には、「ゴール型」の1，2年生では、「空間に走り込むなどの動き」は、ボールを持たない時に得点をねらってゴールの前の空いているスペースに走り込む動きや守備の際に、シュートやパスをされないように、ボールを持っている相手をマークする動きとはどういう動きなのか？3年生では、「安定したボール操作」は、ゴールの枠内に安定してシュートを打ったり、味方が操作しやすいパスを送ったり、相手から奪われず次のプレイがしやすいようにボールをキープするためにはそうしたらよいかを議論した。教師側が、最終的なゲームの様相を明確にしたことで、次にどのようなゲームを仕組んだらよいかということまで深めることができた。

今回の研究では、教師がきちんとした見通しをもつ中で、生徒にどこまで技能獲得をさせるのかを考えたが、まとめるにはかなりの時間を要することを痛感した。そこで、今年度、出されたものをベースに来年度は実際に授業を行い、今後の研究に生かしたい。

IV. 研究の反省と課題

1年間の研究を終え、各校からの意見を集約すると、研究の視点が絞られ、ゴール型の先進的な研究ができたのでとても有意義であったというものが多かった。また、6月に南西中学校で実施した3年生のバスケットボールの研究授業の成果も今年度の研究材料となりそれ以降の研究にいかすことができた。今後は、この流れを継続して他の領域を研究したいという意見や、技能獲得のために有効な学習形態を考えたい、体育人として実際に考えたタスクゲームを自ら動いて検証したいなど様々な意見が出されている。

課題としては、グループごと意見を出し合いまとめたタスクゲームをさらに授業実践を積み重ねることで研究を深め見直していく必要があること、また、実践にあたっては各校の実態に合った独自性を出すこと、そして、ゲームを行う中で、タスクゲームが効果的であったかを検証することが挙げられた。いずれにせよ、教科のねらいである運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てることを達成するためには、教えるべき内容を明確にして、教材を工夫しながら子どもの運動技能獲得を目指すといった流れを大切にしたい。そして、各校が実践を持ち寄りながら、部会全体で計画→実践→意見交換→修正改善のサイクルで討議を深め、各自が実践力を高めたいと考える。